

# 資料室便り

## 交通経済研究所資料室

### ■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）

#### 『脱炭素物流

——地球を守るリアルな政策・技術の選択』  
近江貴治著／白桃書房発行／2023年9月／A5判／  
204ページ／2,750円（税込）

本書は、物流と環境の専門家（久留米大学准教授）が、物流で大幅なCO<sub>2</sub>排出削減のための実効的な対策を考察したものである。国連のIPCCの評価報告書によれば、平均気温の変化など地球の気候は危機に直面しており、カーボンバジェットを基にCO<sub>2</sub>排出量を削減するべきだが、京都議定書などの取り組みは不十分である。世界の部門別CO<sub>2</sub>排出量のうち運輸部門は23%を占め、うち旅客輸送は6割、貨物輸送は4割、道路輸送は78%を占める。このため、モーダルシフトが検討されるが、トンキロ当りの排出原単位と同等の削減効果はない。また、トラックの低燃費化などは、エネルギー製造などのプロセスを含むWTW評価の視点で見ることが必要である。そして、貨物輸送のCO<sub>2</sub>排出量管理には、Freight Identity (FI式)による分析が参考になる。古森□

### ■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

#### 『種時く人

——鉄道弘済会誕生記』  
鉄道弘済会／1954年12月

当研究所（旧・運輸調査局）の発足は、戦後間もない1946（昭和21）年に遡る。この初代理事長である片岡調郎は、当研究所以外にも現在まで存続する数々の鉄道関係組織の設立に尽力した。

鉄道職員向けの福祉事業を祖業とする鉄道弘済会もその1つであり、本書では同会の設立に寝食を忘れて奔走した様子が描かれている。また、片岡と同郷の友人で、当時鉄道省詰めだった毎日新聞記者の青木槐三が執筆していることから、片岡の人となりがわかる資料となっている。片岡の生涯や事績をまとめた資料はあまり多くなく、日記なども残っていない。本書以外にまとめた資料としては、高坂盛彦『国鉄を企業にした男——片岡調郎伝』中央公論新社（2010年）などがある。また、当資料室では「片岡文庫」の名で片岡の蔵書の一部を公開している。原□

### ■新着情報（2023年10月分）

- 1 ラストワンマイルの使命 野田慎太郎 幻冬舎  
メディアコンサルティング 2023年8月
  - 2 新型コロナウイルスと鉄道——新型コロナウイルスの影響をふまえた交通需要予測委員会 関西鉄道協会都市交通研究所編 同団体 2023年9月
  - 3 新交通立国論——バスが日本の未来を明るくする 清水一郎 時評社 2023年9月
- 続きの情報はホームページで

\* 上記以外の新着図書や新着雑誌につきましては、ホームページをご覧ください。キーワードによる蔵書検索も可能です。併せて月別の「新着図書目録」も掲載しています。



### ■資料室からのご案内

毎月「書庫のなかから（所蔵資料の紹介）」で所蔵資料を紹介し、併せてみなさまの来室をお誘いしていますが、読者のみなさんのお住まい、お勤め先近くの公共図書館や専門図書館などにも所蔵されているかもしれません。この機会にお近くの図書館に足を運んでみてはいかがでしょうか。

担当：土方規義 古森崇史 原祥太 田邊由佳